

実施成果

〔雑誌論文〕 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（ 1 ）件

（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

- 1 小室弘毅「荒川修作の天命反転思想と子ども」関西大学人間健康学部『人間健康学研究』第十五号、2022年3月31日、19-34頁、査読あり

〔学会発表〕 計（ 2 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

- 1 村川治彦、"To Not Die", AGxKANSAI 2022: Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS、2022年3月11日、京都芸術大学 Studio21
- 2 小室弘毅、"'New Sensory Gravity' and the Mechanism of Losing Balance", AGxKANSAI 2022 Art and Philosophy in the 22nd Century After ARAKAWA+GINS、2022年3月12日、京都芸術大学 Studio21

〔図 書〕 計（ 1 ）件

（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

- 1 門林岳史、「ポストヒューマンの後に誰が来るのか?」、竹崎一真、山本敦久編『ポストヒューマン・スタディーズへの招待ー身体とフェミニズムをめぐる11の視点』、堀之内出版、2022年3月、全216頁（168-196頁）

〔出 願〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取 得〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

15th International Symposium in Science and Technology at Kansai University 2021(15th ISST2021)

申請区分

国際シンポジウム等助成

実施期間

2021年8月5日 ～ 2021年8月6日

実施代表者

関西大学・化学生命工学部・教授・長岡 康夫

実施分担者

関西大学・システム理工学部・教授・梶川 嘉延

関西大学・システム理工学部・教授・宅間 正則

関西大学・環境都市工学部・教授・池永 直樹

関西大学・環境都市工学部・教授・兼清 泰明

関西大学・化学生命工学部・教授・川崎 英也

成果の概要

本学は、世界各国の大学との国際交流協定締結を進めているが、理工学研究科及び理工系3学部では、学生の単位取得を目的とした留学面だけでなく、国際共同研究をベースとした海外協定大学との交流に大学院生を関与されることで研究のみならず教育への波及効果を意図している。このような背景のもと、国際交流協定を締結しているアジアを中心とした海外協定大学間で、理工学分野の最新の研究内容の発信・情報交換を行うことを目的として、国際シンポジウム（International Symposium in Science and Technology、ISST）を毎年、企画している。本申請は、このISST2021に関わる補助申請である。本年度のISST2021は、関西大学がホーム校として関西大学千里山キャンパスにて開催予定であったが新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み、一堂に会して学会を開催することが困難と考え、2021年8月5日(木)から二日間にわたりオンライン形式（ZOOM）で開催した。表1にISST2021の参加登録者数とその内訳を示す。322名の参加登録者数となり、海外からの参加者登録数は135名（約42%）と、多くの方が海外から参加し、国際学会として大変盛況であった。代表者（長岡康夫 理工学研究科長）のもと分担者による実施体制とその役割分担は、次の通りである。海外協定校との連携やシンポジウム全体の運営方針を決定する「総括」担当、シンポジウムプログラムの企画・運営を行う「プログラム運営」担当、広報や参加・発表者登録、及び当日のシンポジウム講演の運営を行う「庶務」担当が、連携・協力して本シンポジウムを実施した。

研究発表については、基調講演1件（Design of smart polymer biomaterials that innovate next-generation medicine: An introduction of KU-SMART project、関西大学化学生命工学部 大矢 裕一教授）と6つの研究分野で口頭発表88件、ポスター発表141件の発表があり、活発な議論がなされた。表2にその口頭・ポスター発表の内訳を示す。学生ポスター発表においては、投票による審査を行い評価の高かった優秀な発表に対しては、優秀ポスター賞を贈った。

SST は関西大学の海外協定校を基軸とする様々な理工系分野の科学技術研究者のコミュニティであり、今回多くの海外からの参加者があったことから、本シンポジウムを契機に新たな共同研究、学生の相互派遣などがスタートするきっかけになるなど、実質を伴った国際交流をする上で重要な機会となった。また、本シンポジウムに参加した大学院生には、国際的研究感覚のある研究者への素養を身につけるキッカケとなる機会を提供できるなど、人材教育・育成を同時に達成できた意義も大きいといえる。

本国際シンポジウムでは、海外協定大学の代表者が集い、海外協定大学間組織「CONECUTS」の連携強化を図ることも再確認できた。今後、「CONECUTS」を活用してSDGs実現に向けた研究や国際教育を進めるアジア共同体として、大きく飛躍していくための重要な機会となった。

表1. ISST2021 参加登録者数の内訳

所属	参加登録者数
関西大学【学生】	133
関西大学【教員】	54
チュラロンコン大学【学生】/タイ王国	28
チュラロンコン大学【教員】/タイ王国	7
タマサート大学シリントン国際工学部 (SIIT)【学生】/タイ王国	11
タマサート大学シリントン国際工学部 (SIIT)【教員】/タイ王国	3
正修科技大学【学生】/台湾	5
正修科技大学【教員】/台湾	8
マレーシア国立ケバンガンサン大学【学生】/マレーシア	11
マレーシア国立ケバンガンサン大学【教員】/マレーシア	4
マレーシア科学大学【学生】/マレーシア	15
マレーシア科学大学【教員】/マレーシア	4
台湾国立中央大学【学生】/台湾	23
台湾国立中央大学【教員】/台湾	11
その他【学生】	3
その他【教員】	2
学生	229
教員	93
総合計	322

表2. 口頭・ポスター発表の内訳

研究分野	口頭発表	ポスター発表	総数
1. Mathematics and Physics	6	3	9
2. Mechanical Engineering	12	19	31
3. Electrical and Electronic Engineering and Information Technology	15	37	52
4. Civil Engineering and Architecture	15	18	33
5. Materials Engineering and Chemistry	20	38	58
6. Life and Food Science	20	26	46
Total	88	141	229